

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690900129
法人名	株式会社 ドリーム愛寿
事業所名	愛寿乃里
所在地	小矢部市福上362-1
自己評価作成日	令和3年9月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が安心して安全に自分らしく過ごせる居場所づくりを心がけている。また、利用者間の良い関係作りの為、相互の思いを尊重し交流して楽しんで頂けるような場面作りをしている。優しくゆっくりとした対応を行い、利用者にとって心地よい暮らしを心がけている。各利用者やご家族の意向があればその都度個別で話す機会を設け、確認したり、日頃の様子もお伝えし信頼関係の構築に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園の中にあり、正面には稲葉山が、フロアのテラスからはクロスランドタワーが見え、玄関ではチップの木の香りと育てた花々が来訪者を迎えてくれる。社会貢献を原点に作られた理念は5つの幸せ「愛」「安全」「安心」「温かい」「明るい」をモットーにしており、わかりやすく職員にも浸透している。この理念は利用者だけでなく地域や職員にも向けられており、子育て中の職員も働きやすく、宿題を持って職員の子供達が施設で過ごすなど、ほのぼのとした交流がある。同じ建物にある小規模多機能施設との連携、交流もあり、幅広い支援に役立っている。働きやすい環境から、職員は心に余裕を持ち業務に集中し行動力を発揮している。訪れるとまだここにいたいと思える居心地の良さがある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに職員研修でホーム長より「事業所の理念」について講演し、職員間で周知を図っている。基本理念である「愛、安全、安心、温かい、明るい」については、玄関に貼りだし日々確認している。	法人の理念「愛」「安全」「安心」「温かい」「明るい」は、それぞれピンクのハートマークの中に書いてあり、玄関に掲示されている。職員研修時の他、毎日確認できる環境にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地区の公民館祭りに参加していたが、新型コロナウイルスの流行により、参加は見合わせている。密を避け近くのクロスランドにお花見に行ったり、稲葉山等にドライブに出かけている。	コロナ禍により、ボランティアの受け入れや地域行事への参加を見合わせてはいるが、近所の方から花や野菜の苗をいただいて育てたり、花や野菜の差し入れをいただいたり交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年までは、地区の長寿会の「法話会」に場所を提供し、近隣のお寺の住職の法話を利用者も一緒に聞く機会を持っていたが、昨年、今年はコロナ禍であり密を避ける為、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況や実際のサービスの状況やヒヤリハットの報告及び再発防止への対策や検討等も報告し、出席者の理解を得、サービスの向上に生かしている。	コロナ禍で書面開催にしている。会議の内容については、職員間で委員会の事例検討会で話し合い、共有している。利用者に必要な情報は個人情報に配慮し伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は密を避ける為、書面会議となっているが市健康福祉課や地域包括支援センターとは密に連絡を取り入所者の空き情報を連絡し、相談している。	地域包括支援センターや市との連携で、利用者、職員の新型コロナウイルス予防ワクチンをグループホームで接種することができた。また、安全なマスクの提案を受けたり、水害時の具体的な避難方法も提案いただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。20時以降は防犯対策として施錠している。利用者に身体的精神的苦痛を与えない安全で安心して生活を送っていただくことを最優先にケアを提供している。	2か月に1回、第3火曜日に「身体拘束適正化委員会」を開催している。4月と10月に担当職員が以前参加した外部研修の資料や、職員がインターネットで調べて資料を作成し「身体拘束に関する」施設内勉強会を開催している。	コロナ禍で外部研修も少なく新しい情報が入りにくい。最近ではオンラインでの研修もあるため、内容がマンネリ化しないように新しい情報も取り入れ、更なる取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は、職員研修で身体拘束や虐待について学ぶ機会を持っている。スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロック等について具体的な例を提示し、内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回以上は、職員研修会で権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、日頃の利用者に対する支援の中で生かすよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時には、利用者とその家族に契約書と重要事項を提示し、丁寧に説明し理解して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、直接家族に利用者と一緒に会う機会はないが、リモート面接ができることを家族に伝え、その機会に家族の意見を聞き、ケース記録にその内容を記入し、職員間で内容を周知し、日頃の支援に生かしている。	家族が薬を持参された時に最近の様子を伝え、要望も伺っている。リモート面会に対応しており家族にも勧めている。「会いたい」の思いをかなえるため、車いすの利用者と家族が車越しで面会するなど、できる限り工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回本社でのリーダー会議や職員全員参加の事例検討会で個々の利用者の介護への改善策が出され、職員間の意見が日ごろの介護に反映されている。	風呂の椅子、手すりなどの傷みを報告すると直ぐに直してもらえる。アクリル板、ロールカーテン、リモートなど、現場職員の意見がスムーズに伝えられ実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の事例検討会には、事務長より就業に関する事や制度等について説明している。年に1度各自の目標を設定し、達成度を本人に記入してもらう事で各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回施設内研修を行い、身体拘束廃止や虐待防止等について、職員が講師となって学んでいる。法人外研修については、個々の力量や希望に応じて参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に入会している。昨年と今年はコロナ禍の為、研修会は未実施となり、資料のみの送付となった。地域のグループホームとは、電話などで連絡をとり、意見交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や入所時にご家族と面接し、自宅での生活状況や本人とご家族の要望を伺っている。真摯に向き合い本人の思いに耳を傾け本人の要望に沿った生活を安心して送って頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、具体的に困っている事や要望などをこちらから伺い主治医や専門スタッフなどで連携を取りながらケアしていく事をお伝えし、本人や家族の意向に添えるよう実践し、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今、何に困っているかを伺い、今、何を支援すべきか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き、利用者一人ひとりの過ごし方に合わせ支えられるよう努めている。利用者一人ひとりに生きがいを持って過ごして頂けるようケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや気持ちを聞き、家族に本人に必要な物をその都度準備していただいている。状態に変化が見られた時やケアに困った時などは家族にも相談し、意見を聞きながら本人を支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っている美容院に行きカットや毛染めをしてもらったり、友人やご家族に手紙を出したり、電話で話しをしてもらったりしている。コロナ禍で直接面会はしてもらえないが、家族とは途切れず交流してもらっている。	家族に確認し手紙を出している。返信が来ると嬉しそうな様子が見られる。電話は耳の遠い方にはスピーカーフォンを使うなど工夫している。また、オンラインメールも検討している。	家族に対して、できるだけ沢山写真を送ってあげたいの思いからオンラインやメールの活用を検討中とのことで、今後の取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人柄などを考慮し、交流できるよう努めている。食事の盛り付けやおやつ作り、日々のレクリエーション等で交流できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用して居られたが、本人の希望によって退所された方が、再度利用したいとご家族から連絡が来た事がある。その都度お話を聞き対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で会話や表情等から本人の思いや希望を汲み取っている。本人からの訴えがあった場合や気づきがあった場合はケアパットに記録を残し、すぐに職員間で検討し対応している。	1月からケアパットを活用しており、職員間での情報の共有がスムーズになった。「家に電話したい」など些細なことにも直ぐに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族や本人のこれまでの生活や職歴、趣味などを伺い、サービス利用時に生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方について、日々の生活の中でバイタル測定や食事状況、本人の発言や行動等を把握し、意向や心身の不調や変化を見落とさないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態、行動、会話から、本人の趣味や意向を見つけたり、状態に変化が見られた時などは家族等に相談し、その時々本人に応じた介護計画を作成するように努めている。	月一回利用者全員の事例検討会で、問題点、達成したこと、次はどうして行くかを話し合い、記録で共有し介護計画に活かしている。また、気づきノートに試してみたいことを記入し活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケアパットに記録し、変化や気づきがあった時は、その都度出勤している職員で意見を共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の嘱託医の往診時や訪問看護師の訪問時に健康状態を見てもらい、他科受診等の必要があれば家族に受診介助を依頼している。車いすの方の送迎を行う等のサービスを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在公民館祭りには参加していないが、コロナ禍が終息したら参加していきたい。密を避け、クロスランドへの花見や地域のチューリップ祭りに園車で外出援助を行い地域へ出かけ、地域とのつながりを感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	7人の利用者の主治医は当施設協力医であり月2回の往診で健康管理を行っている。往診時には、看護師が付き添い、状態変化や服薬状況について報告し指示を受けている。その他の利用者は、入所前からのかかりつけ医へ家族の付き添いで通院している。その際、看護師が記入した近況報告を渡し、情報提供をしている。	協力病院以外の医師も往診に来ている。かかりつけ医受診時には、家族を通じて看護師が記入した情報を渡し、医師からの伝言は家族から伺い、記録し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、体調の変化や異常に気付いた時、看護師に相談している。そして速やかに主治医に連絡し適切な介護、看護を行えるように支援している。また月2回来ている訪問看護師は24時間オンコール体制にあり、施設看護師から状態を連絡し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、状態の経緯や日頃の身体状況、生活状況を病院に速やかに報告し、治療に生かして頂けるように努めている。また、地域連携室とも連絡を取り合い退院時に状態変化がある時には家族や病院関係者とカンファレンスを行い退院後も安心して生活できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が安心して生活できるように家族に説明しながら利用者の状態にあった介護方法や福祉用具を取り入れている。利用者が求める生活環境を整え「重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護についての同意書」の整備はされている。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護についての同意書」の書類が整備されている。現在のところ看取りの経験はないが、個々の利用者や家族のその時々思いに寄り添い主治医とも連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度全職員が救急講習(AED)を受講している。職員研修会では看護師が講師となり「緊急時の対応について」の議題で職員全員が緊急時に対応できるように勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練、水害訓練を実施している。火災訓練は日中及び夜間を想定して消防、防災設備保守業者の協力を得て実施し、同時に職員緊急連絡網の訓練を実施している。水害時の自然災害対策についてはマニュアルに沿って避難訓練を行い、利用者全員を本社まで搬送することになっている。	近隣に小矢部川があり、水害時は本社ビルに利用者全員が避難することになっている。非常食は、水、レトルトごはん、乾パンなどが3日分備蓄されている。また、緊急連絡網は近くに住む職員を先にするなど工夫されている。	夜間の職員が少ない時間に、本社ビル1階から2階へ上がる方法や、本社ビルの備蓄など、さらなる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者の訴えやお話を傾聴するように心がけ、できることは速やかに実行して利用者が負担を感じることなく穏やかに過ごせるように援助している。居室は入り口に暖簾を掛け、プライバシーに配慮し、家族と相談し、物品を持参してもらい自宅での生活の延長になるように協力を得ている。	利用者や家族が持参したお気に入りの暖簾を居室の入り口にかけている。また、入浴時など同性介助を希望される方にはその思いに応えている。温かい言葉がけをするよう全職員が気を付けて支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は毎日一人ひとりに挨拶し、顔を合わせてから仕事を始めるようにしている。バイタル測定時には「困っている事がないですか？」などの声掛けもしており、利用者が想いを話しやすい環境を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて、その都度希望を聴き、散歩に出たり、歌を歌ったりして過ごしている。また、食事体調によっては、居室で食べて頂いたり、時間をずらして食べることで、一人ひとりのペースに合わせてるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て、自宅で着ていたお気に入りの洋服等を持参してもらっている。自分でできる方には、入浴時にご自身で衣類の準備をもらう等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	午前中の調理の下ごしらえには、利用者に関わってもらっている。盛り付けや洗浄後食器を拭く等の片付けをしていただいている。おやつ(白玉パフェ、よもぎもち等)をみんなで手作りし、食べる機会を月1回設けており、食事をより楽しめるよう援助している。	地域には田祭りで笹寿司を作る風習があり、職員が笹を摘み、洗い、利用者が拭き一緒に手作りを楽しんでいる。また、敷地内の畑で育てた野菜もとれたてを味わっている。さらに、移動販売車が毎週来所し、利用者は商品を選び購入し、食べることもできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の全身状態や嚥下状態に合わせて、食べる量や形態を考慮し提供している。十分な水分を摂っていただく為、食事時だけでなく、入浴後、おやつの際にもジュースやコーヒー、紅茶等を提供している。水分がなかなか摂れない方には、お茶ゼリーやアクエリアスゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを勧めている。自分で磨けない利用者には介助を行っている。義歯は、夜間入れ歯ケースに保管し、週1回入れ歯洗浄剤を使用している。必要な方には歯科受診をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にトイレでの排泄介助や見守りを行い、排泄パターンを記録し、声掛けする等支援している。排泄用品(紙おむつやパット)は、本人の排泄量に応じた物を専門業者に相談して使用している。	排泄時に下着を上げ下げしやすい様に工夫したり、利用者の気分の良い時に声かけしている。個々の状況に合わせて、課題の発見があればその都度直ぐにチームで試している。	排泄パターンシートを活用し、トイレ誘導のタイミングをより精査することで、気持ちよくトイレで排泄できる場面が増えるようさらなる工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量を記録して、排便の経過を確認している。個々に応じ、テレビ体操や屋内、前庭散歩に出かけ身体能力の低下を防止している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人週2日入浴を実施している。体調が悪い時は、状態に応じて、足浴をしたり、清拭を行ったりして、身体の清潔を保っている。また、入浴剤を入れたり、季節に合わせてみかんの皮や柚子を入れる事で入浴を楽しむ工夫をしている。	湯舟に近所から頂くカリンや柚子を浮かべると香りも良く利用者からは好評を得ている。また、4種類の入浴剤をその日の気分で使用し、特にローズや紫の入浴剤が喜ばれている。小規模の機械浴も使用可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望でフロアのソファで休息したり、各自の部屋で休んだり、その時の利用者各自の思いを尊重し、安心して眠れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者一人ひとりの服薬内容を把握できるよう、薬剤情報を確認しやすいところに保管している。服薬時利用者には、分包薬の日付けと本人の名前を確認して頂き、職員は飲み込みまでを確認している。体調の変化に応じた服薬変更時には副作用などに気を付けて見守り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の流れの中で、利用者個々ができることを見つけ、一緒に生活する一員として役割を担ってもらうことで生きがいを持って生活していただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に花見やチューリップ見物、コスモスウォッチング等、園外活動や買い物に出かけている。個々の希望を聴いて参加を促している。自宅への外出については、家族の協力をお願いしている。	利用者と自宅に郵便物を取りに行ったり、家族と行きつけの美容院へ行っている。また、感染対策を行い、人込みを避け、道の駅でアイスクリームを食べたり、クロスランド小矢部、稲葉山には花見やドライブに出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回移動スーパーが来る時には、家族より預かったお金を持って、利用者自身で買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に電話を掛けたり、手紙を書きたいと希望されるときは、事前に家族に了解を得て、電話を掛けたり手紙を書いていただき、職員が投函支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、利用者と一緒に作成した貼り絵を飾り、季節感を共有し、一緒に作った達成感を共感できるよう工夫している。また季節感を感じてもらえるよう、玄関やフロアーに季節の花を飾るよう心がけている。	天井が高く、壁や柱は落ち着きある色で統一され、中央には高級感あるゆったりとしたソファが配置され利用者からも好評である。テラスに出ると田園が広がり、向こう側にクロスランドのタワーが見え、ゆっくり過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、気の合った利用者同士でソファに座って一緒に歌を歌ったり、昔話をしたり、一人で読書をしたり、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋とフローリングの居室があり入所時に衣装ケースやフックハンガー等なじみの物を持ってきて頂き、本人が生活しやすく居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は清潔感があり、入り口には持参された暖簾がかかっている。また、家族が来所した際に家族写真を飾るなど、利用者の好みや思いを尊重し配置、装飾されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーは、車いす、四点杖、老人車等個々の利用者にあつた移動器具を使用してもらい、それに応じた移動ができるよう、テーブルやソファの配置を考慮している。また歩行の安全を考え、室内履き等も業者にサンプルを持参してもらい、その人にあつたものを選定している。		

2 目標達成計画

事業所名 愛寿乃里

作成日: 令和 3年 10月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫しているが、充分とは言えない。	すべての利用者の家族に対して、愛寿乃里便りや写真を送り、現在の本人の様子を伝えていく。	家族に対して、個々の利用者の現在の様子を写真を撮って送ったり、家族の了解や協力の元、オンラインやメールを活用し、動画等も送る努力をして行く。	12ヶ月
2	43	排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っているが、充分とは言えない。	排泄パターンシートを活用し、トイレ誘導のタイミングをより精査することで、気持ちよくトイレで排泄できる場面が増える工夫をする。	排泄パターンシートを活用し、失敗の少ない人に紙パンツでは無く、布パンツ+うすいパットを使用し、様子を見ながら排泄の自立を促して行く。	12ヶ月
3	35	年2回、火災訓練、水害訓練を実施している。近隣に小矢部川があり、水害時は、本社ビルに利用者全員が避難する事になっているが、3日分の非常食が愛寿乃里のみに備蓄されており、避難先の本社ビルには備蓄が無い。	職員が少ない夜間の時間帯に、本社ビル1階から2階へ上がる方法を考える。本社ビルに非常食を備蓄する等の体制作りを行う。	日中に夜間を想定し、限られた勤務者と緊急呼び出し職員で本社ビルへ移動し、1階から2階へ上がる方法を実施したり、愛寿乃里のみならず、本社ビルにも非常食を備蓄し、体制づくりを行う。	12ヶ月
4	6	現在身体拘束対象者はおられないが玄関の施錠を含めて、内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。コロナ禍で外部研修が少なく新しい情報が入りにくい。	2か月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催している。年2回施設内研修会を実施し、合わせて外部研修会にも出席し、新しい情報を取り入れる。	コロナ禍で外部研修会が少なく、新しい情報が入りにくいのが、オンライン研修等を取り入れ、マンネリ化しないよう努めていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。